

59 学歴という観点から見た日本社会

～ 良い大学にこだわる意義ってなんだろう ～

1 研究背景と研究目的・意義

1.1 研究背景

半田高校に入学して勉強していく中で、勉強する意義について考えるようになった。そこで、なぜ学歴は人を判断するときのものさしになったのか、何のために勉強をして良い大学に行くのか明らかにしたいと思った。3月に行われた知多地区探究成果発表会にて、ギャラリーの方より、現在の日本社会で学歴が重視されているという前提は正しいのかという指摘をいただき、その視点も含めて現在は調査を進めている。

1.2 リサーチクエスチョンと先行研究・事例

日本社会においてなぜ学歴が重要視されるようになったのか、そして高い学歴を身に着けることで何が得られるのか。

●先行研究

- ・松浦司「学歴は所得に対して優位に働く。」
- ・谷田部光一「採用コストを下げるために学歴フィルターを使用。」
- ・吉田和久「大卒者は専門職従事が維持されている。」

1.3 研究の目的・意義

受験勉強をしていくうえで、自分の中での勉強の意義をはっきりさせること。

勉強のモチベーション向上に生かすこと。

1.4 仮説とその根拠

1. 先行研究により、学歴を高めることで就職に有利になるのではないかと、という仮説を立てた。
2. 昨年度までの調査結果から、世間で重視される学歴の本質は大学で学んだことというより受験勉強を頑張ったことなのではないかと、という予想を立てた。

2 研究方法1 半田高校生を対象としたアンケート

2.1 研究の目的とリサーチクエスチョン・仮説との関係

半田高校の生徒を対象としたアンケートを行った。

高校生の志望する大学と志望理由を調査することで高校生がどの程度学歴を重視しているのか知る。

2.2 研究と分析方法

質問項目は、1. 志望校 2. 志望理由

回答結果をパーセンテージで表し、志望理由にはどのような傾向があるのか分析する。

2.3 結果

上位大学を志望している半田高校生が多い。68件の回答のうち、27件(39.7%)が「就職のため」という回答だった。他にも、「専門的な勉強をするため」(19.1%)や「人生経験のため」(14.7%)、「肩書のため」(13.2%)、などの回答があった。

2.4 考察

将来就職することを見据えて大学を志望する生徒が多いことから、高い学歴は就職に有利になると考えている半田高校生は多い。

3 研究方法2 大学生を対象としたアンケート

2.1 研究の目的とリサーチクエスチョン・仮説との関係

大学生を対象としたアンケートを行った。

実際に大学に進学した人の進学理由を調査し、半田高校生の志望理由と比較する。

3.2 研究と分析方法

Google formを用いてアンケートを行い、交流のある先輩方にご協力をお願いした。

質問項目は、1. 進学理由、2. 大学で学ぶことは就職に関係しているか。

回答結果をパーセンテージで表し、高校生のもものと比較する。

3.3 結果

24件の回答のうち、12件(50%)が「専門的な勉強・研究をするため」という回答だった。他にも、「就職のため・社会で通用する実力をつけるため」(20.8%)や「資格や免許のため」(16.7%)などの回答もあった。また、全体のうち75%が大学で学んでいることは就職に関係していると答えた。

3.4 考察

高校生へのアンケート結果と同様、将来の就職を見据えて大学に進学した人が多い。しかし、高校生を対象としたアンケートでは「肩書のため」「人生経験のため」という回答が27.9%あった。このことにより、大学生のほうがより学歴と就職を結び付けて考えていると考察できる。

4 研究方法3 実際に社会で働いている方にお話を伺う。

4.1 研究の目的とリサーチクエスチョン・仮説との関係

「知多探求ネット」に協力いただいている外部の方にお話を伺った。

実際に社会で働いている方にお話を伺うことでよりリアルな学歴社会の実態を知り、これからの調査に活かしていく。

4.2 研究と分析方法

質問項目は①現在、社会で就活生の学歴は重視されているか。

②学歴の重要度は今と昔で変わったか。

4.3 結果

①企業は学歴だけを重視しているわけではない。企業の目的は「生き残ること」であるため、もちろん学歴の高い人材が欲しい。なぜなら、学歴の高い人は勉強をする力や強い精神、資質があるから。

ただ、学歴だけでは偏ってしまうため勉学以外も重視される。

②学歴の重要度は世相が反映されるため、首相によって変わる。文部科学省が出している、欲しい人材の能力値について調べてみるとよい。

4.4 考察

仮説である、「学歴の本質は学校で学んで身に着けたことよりも勉強を頑張ったことにある。」というのは正しいと言えそうだ。

5 結論と今後の展望

5.1 結論

仮説はある程度正しいと言えそうだが、研究方法3では1人にしかお話を伺えていないため根拠がまだ不十分。

5.2 今後の展望

社会で働く様々な人にお話を伺いたい。

文部科学省が発表している新しい人材の能力値についても調べ、政府・財界の2つの視点で比較してみたい。

5 謝辞

探求担当の平野先生、戸田先生、日本福祉大学の中野恭志様、アンケートに答えてくださった方々のご協力に深く誠意を伝えます。

6 引用文献・参考文献

松浦司 「階層・学歴・学力が所得に与える影響について」

谷田部光一 「日本企業における新卒採用基準の実態と問題点」